

認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解
を深めるための普及啓発に関する調査研究事業

「認知症にやさしい地域づくり」 評価指標の作成

国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター
准教授・主任研究員
庄司昌彦 (Masahiko Shoji)

認知症の人にやさしいまちづくりガイド

H26年度 老人保健健康増進等事業 認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業

- 認知症の人にやさしいまちづくりの目標を4領域に分類
- 3アプローチ、6つの課題と解決の方向性を示す
- 企業関係者、認知症支援関係者、地方自治体、メディア等に送付
- 朝日新聞、読売新聞、共同通信（山形、山口、沖縄、専門サイトなど）、Yahoo!で報道

認知症の人にやさしい まちづくりガイド

セクター・世代を超えて、取り組みを広げるためのヒント



国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター
認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ

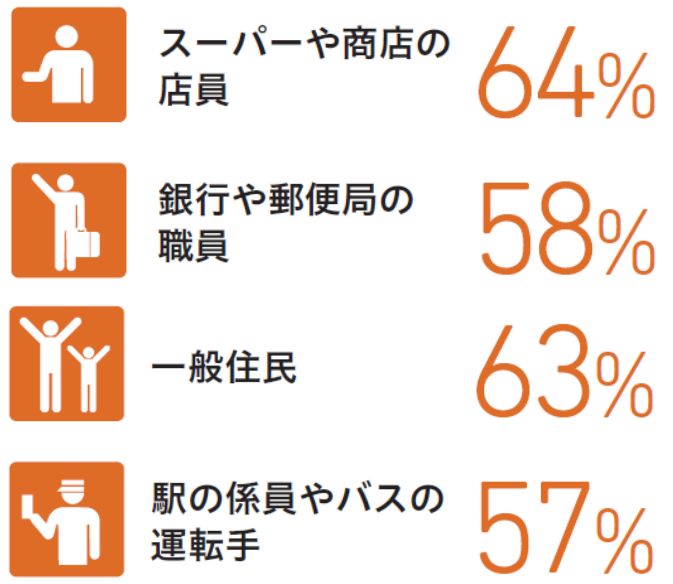


平成26年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業

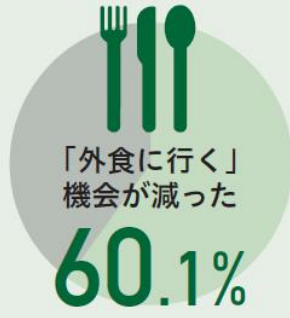
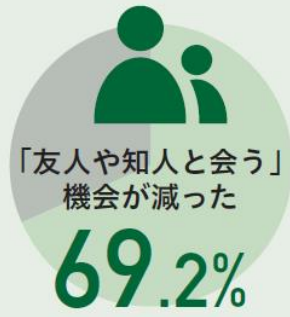
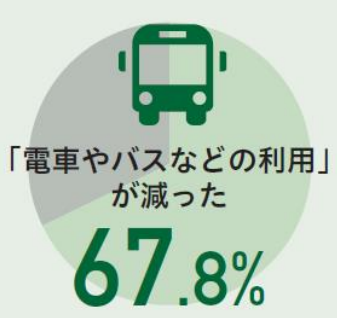
当事者に対する 大規模アンケート (国内初)

- 「認知症の人にやさしいまちづくり」へのニーズを把握
- 読売・朝日 (Yahoo!) 掲載

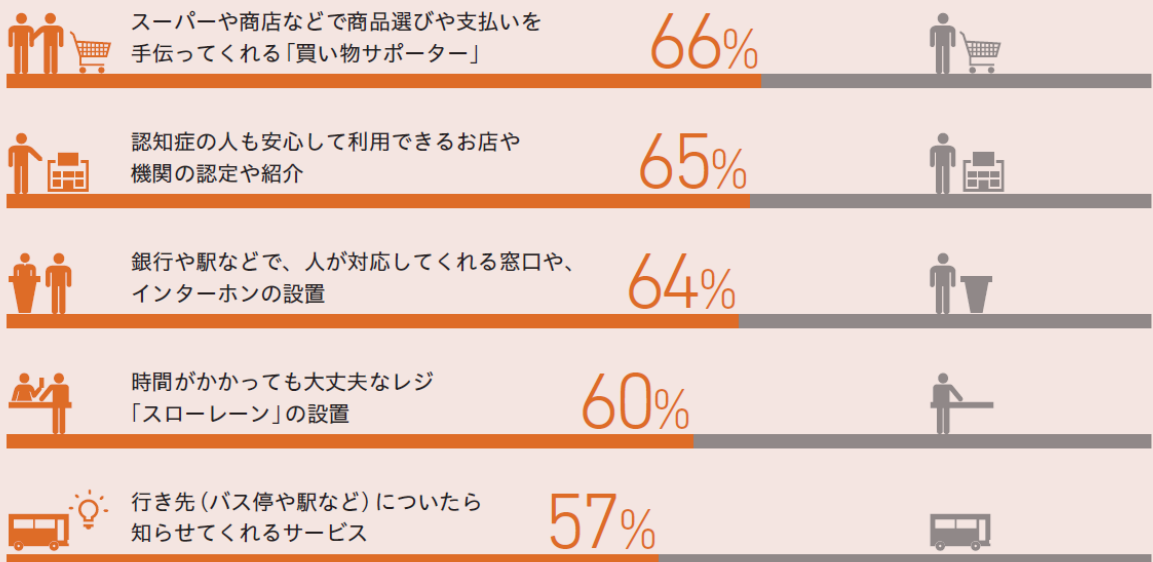
どのような人に認知症に対する知識を持ってもらいたいのか？



☹️ 認知症になることで、
外出や交流の機会が減っています。
(「回数や頻度が減った」、「活動をやめた」と答えた人の割合)



😊 「こんなサービスがあったら、地域でもっと暮らしやすくなる」
認知症の人たちから、こんなサービスや改善が求められています。
(認知症の方が地域で暮らしやすくなるために「あったらいいと思う」と答えた人の割合)



6つの課題への示唆

1 知識から体験へ

アクション・行動変容につながりにくい

座学による知識伝達に偏った現状。認知症の人と出会う場づくり、イベントや訓練などの行動を伴う活動、認知症の人と一緒に何かをする体験など、気づきから行動変容につながる設計を重視

→ 気づき、アクション、ワクワク感

2 民間のプラットフォーム

全域拡大が難しい

生活圏域の課題に取り組む人と、全域課題で取り組む人が、課題意識を共有し、出来る領域からスタートするプラットフォームが必要。公平性・代表性の制約を受ける自治体はこの役割を担うのが難しい

→ 富士宮イベント実行委員会、町田ワークショップ、英国DAAなど

3 ビジネスセクターのイニシアチブ

職域全体への取組みにつながりにくい

個人商店などを除くと、企業のトップダウンのイニシアチブが必要。
マニュアルや職場研修を通じた行動変容を促すプログラム

→ イオンの全社の方針、英国の認知症フレンドリー金融憲章

6つの課題への示唆

4 手挙げ方式で始める

ネットワークとしての継続が課題

形式的な連携やプラットフォームは、職種や部署の利害対立から形骸化の傾向
できる人・グループ・部署から、できることからスタートする
立ち返る原点として（利害対立を克服する手段として）の認知症の人の声

→ 富士宮のイベント実行委員会、京都式アイメッセージ、大牟田商店街

5 多様な参加方法

認知症の人の声・ニーズの反映が課題

当事者視点が大事なのは理解できるが、誰に聞いて、どのように反映させれば
よいか各地で手探り状況。聞き取り調査・アンケートだけでなく、施策や企業の取り
組みの企画の場に認知症の人自身が参加する、認知症カフェやイベントなどを通じて
など認知症の人との接点を増やすなど方法は多様。

6 アウトカム指標を設定してみる

アウトカム指標がなく評価できない

認知症サポーター人数のようなアウトプット指標ではなく、認知症の人の暮らしやす
さの変化等、まずは何かアウトカム指標の設定してみる
手法の標準化はまだできてないが設定することでマインドセットの変化が期待される。

→ 京都の検証プロセス

概要・体制

認知症にやさしい地域づくり評価指標（フィデリティスケール／フィデリティ尺度）を設計する。指標は、理論的・外部評価的に与えるものではなく、各地の先進的な実践の優れた点を取り入れ、さまざまな組織や自治体が自主的に判断し、各地域にあった取組みを構築していくことを容易にすることを目指す。

ワーキンググループ

岡田 誠 （株）富士通研究所R&D戦略本部シニアマネージャー

徳田雄人 （株）スマートエイジング代表取締役

河野禎久 筑波大学ダイバーシティ推進室助教

事務局

庄司昌彦 国際大学GLOCOM 准教授／主任研究員

調査手順・対象・時期

1. 「認知症フレンドリージャパンサミット」で意見収集（9月）

- 評価指標（a版）の大枠を提示し、指標の構成要素等に関する意見抽出や、全国の事例収集等を行う
- 行政関係者、福祉関係団体、民間企業等 40-50名

2. 細目に関する仮説の設定（9月）

- 認知症当事者の意見、国際動向等を踏まえ、WG（3名+事務局）で各項目・レベル等の仮説設定を行う

3. 先進地域ヒアリング調査の実施（富士宮・大牟田）（10-12月）

- 仮説検証・評価を行うため、先進地域で認知症の当事者・支援者等を含むインタビュー調査等の情報収集を行う

4. 評価指標（a版）に関する対話型WSの実施（1-2月）

- 3を踏まえた評価指標（a版）を報告し改訂に向けた課題を抽出
- 行政関係者、福祉関係団体、民間企業等 40-50名

作成作業と具体的イメージ

「まちの人の参加度」等、認知症にやさしいということに関する取り組みをカテゴリ化していく

具体的なアクションのレベルを記述していく

まちによって特色は違う。そのまちの特色を高めるための設計を支援するツール

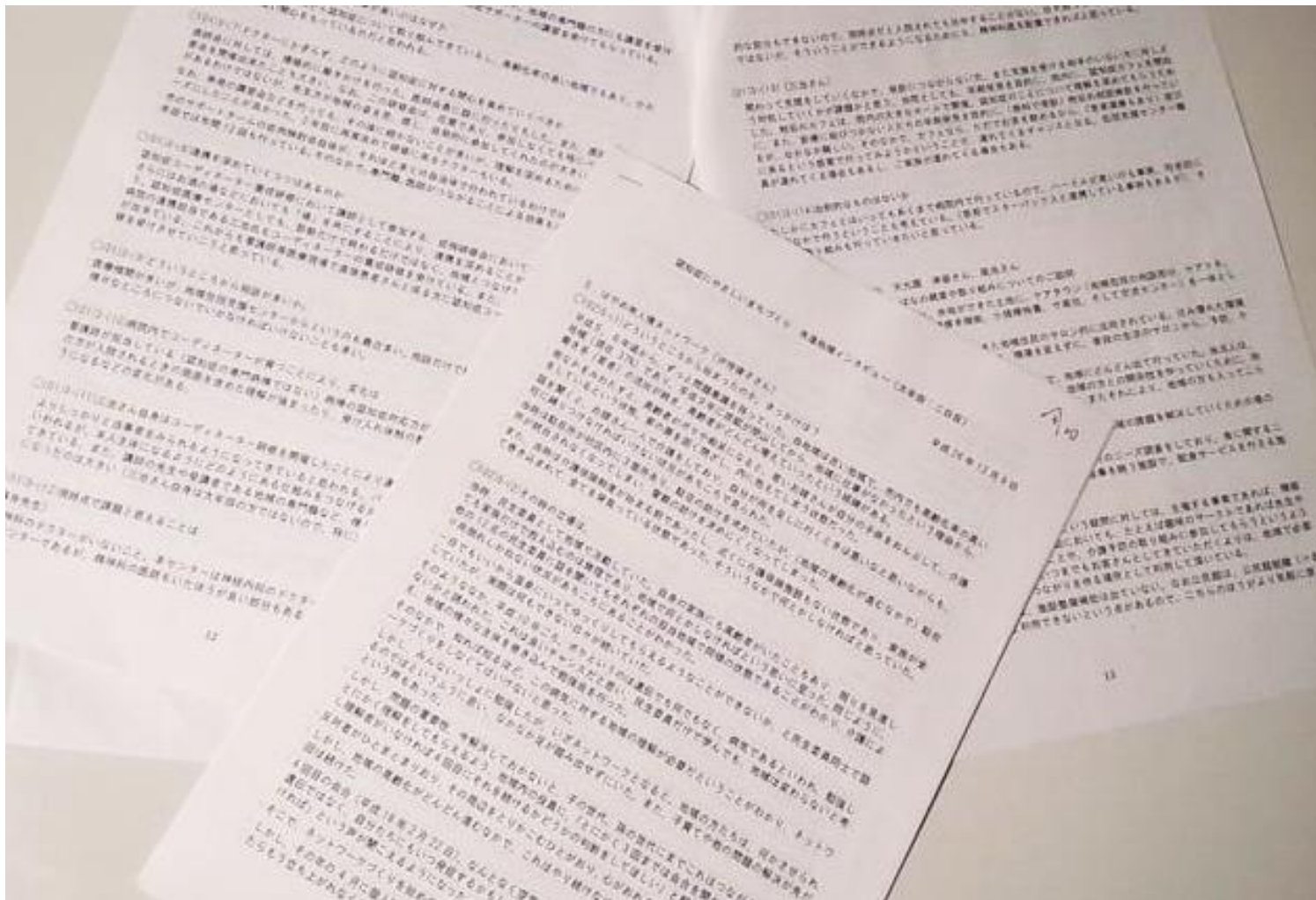
基準	評価・アンカーポイント				
	1	2	3	4	5
〇〇〇〇〇〇					
1	〇〇〇〇〇 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇
2	〇〇〇〇〇 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇	
3					
4					
〇〇〇〇〇〇					
1	〇〇〇〇〇 - 〇〇〇				

「自治会」「商店街」「学校」等のサブカテゴリを記述していく

「当事者の声をきいているか」等、様々な項目があるはず

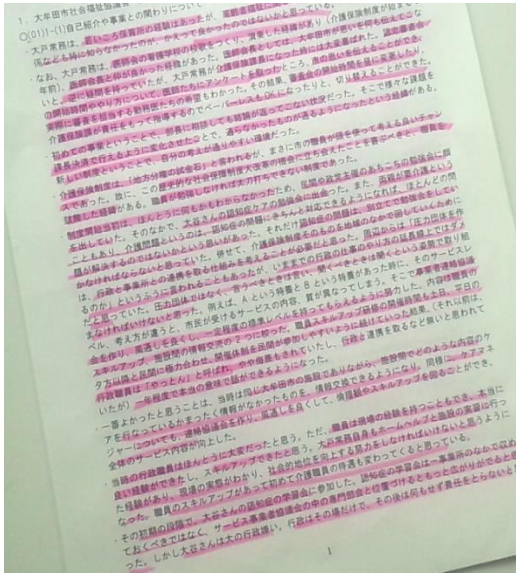
- ・ 特長は街により異なる
- ・ 全てを右にすればよいというものでもない

インタビュー調査の記録 (H26老健事業)



- 富士宮・大牟田のインタビュー記録から、発言の中に表れている優れた点や知恵・工夫等を抽出

現在進行中のプロセス（富士宮・大牟田）



抽出

カード化



知恵のカテゴリー化

カテゴリー・サブカテゴリーの例

「ひと」の広がり

➤ キーパーソンの広がり

セクターを超えて認知症にやさしいまちづくりに取り組んでいる中心的な人が存在しているか（見えているか）。それらの人同士のつながりが生まれているか、つながりから具体的なアクションが生まれているか。

本人の声と行動

➤ 本人が「伝えられる」環境づくり

認知症の本人がどのくらい広く自分の状況（認知症であること等）を伝えられる環境にあるか。そのための取り組みがあるか。

➤ 本人の言葉を聞く

キーパーソンの広がり

セクターを超えて認知症にやさしいまちづくりに取り組んでいる中心的人が存在しているか（見えているか）。それらの人同士のつながりが生まれているか、つながりから具体的な行動が生まれているか。

サブカテゴリ\レベル	1	2	3	4	5
<u>キーパーソンのいる領域数</u>	いない	福祉・行政に少なくとも1名	福祉・行政に複数名	福祉・行政以外にも	福祉・行政以外の複数の領域と地域に複数名
<ul style="list-style-type: none">・市役所・社協・地域包括・商店街・町内会や自治会	0	1	3	5<	10<

キーパーソン同士のつながりの数

地域外とのつながりの数

具体的なアクションの数

本人が伝えられる環境づくり

認知症の本人がどのくらい広く自分の状況（認知症であること等）を伝えられる環境にあるか。そのための取り組みがあるか。

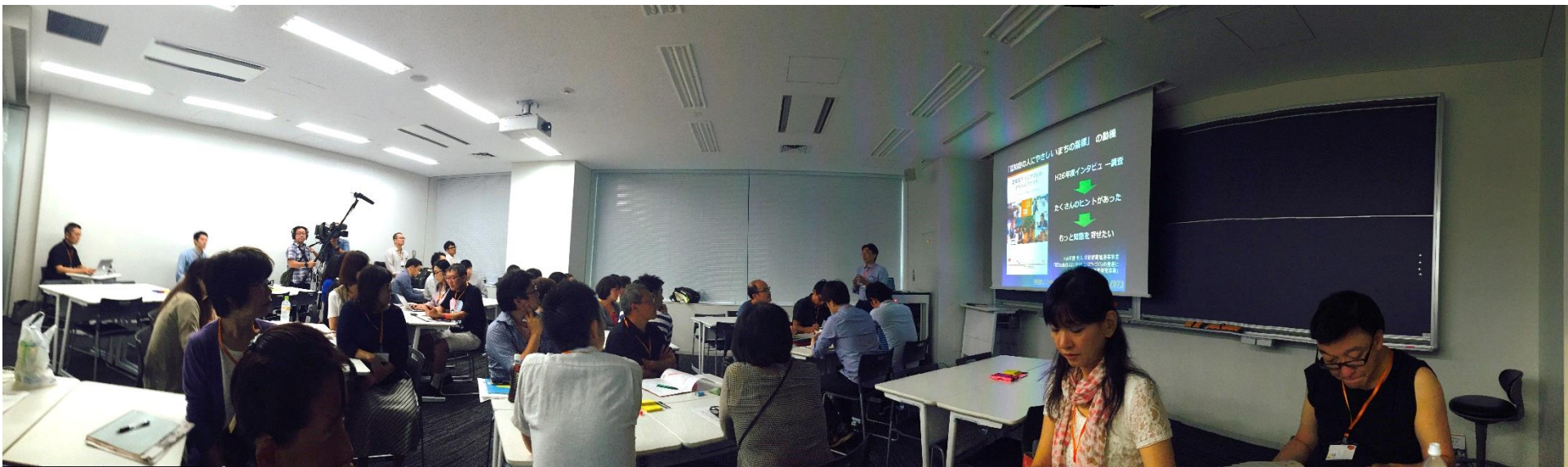
レベル	1	2	3	4	5
伝えられる相手の範囲	いない	配偶者 家族	友人 知り合い	近所・地域・ 活動の場 (職場など)	不特定多数 (講演会など)
伝えられる相手の数	0	1	3	5<	10<
伝えられている当事者の数	0	1	3	5<	10<

本人のことばを聞く

レベル	1	2	3	4	5
本人の視点から	周りの人は聞いてくれない	家族を通して聞いてくれる	特定の人だけ聞いてくれる	不安はあるが周りの人は聞いてくれる	安心して周りの人が聞いてくれる
家族の視点から	聞いていない	本人の話を聞きながら否定してしまう	本人の話を聞きながら遮ってしまう	本人の言葉を先回りしながら聞く	本人の言葉を待ちながら聞く
行政の視点から	聞いていない	医療・福祉の関係者から聞く	家族会から聞く	家族から聞く	本人から聞く
地域の人々の視点から	興味がない	本人の声をメディアを通じて聞く	本人の声を講演会で聞く	本人と話を する	本人と友人になる

認知症フレンドリージャパンサミット2015

- 日時：2015年9月5日（土）6日（日）
- 会場：明治大学中野キャンパス
- 参加者：認知症の当事者・家族・自治体関係者・医療介護関係者・企業関係者
- 評価指標セッションに約40名が参加



“具体的に指標を考えてみる”

項目	評価・アンカーポイント				
	1	2	3	4	5
○○○○○○					
1	○○○○○ ・ ○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○
2	○○○○○ ・ ○○○○ ・ ○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○
○○○○○○					
○○○○○○					



1行分を、実際に書いてみる

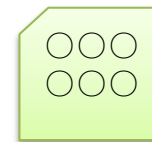
カテゴリ

各レベルの内容 (1, 2, 3, 4, 5)

作業シート (各自 1 枚)

評価指標のタネ

ビジョン・目標
大カテゴリー



指標

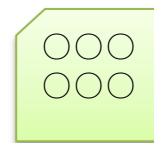
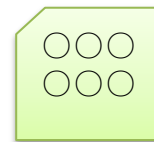
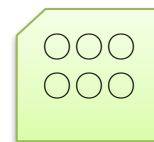
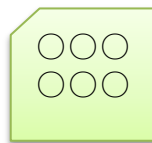
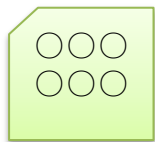
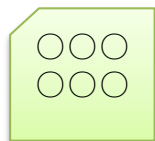
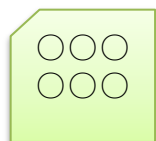
1

2

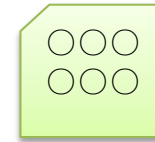
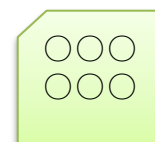
3

4

5



感想



ワーク1

大切にしたいこと（ビジョン）を考える

- 個人として1～3個考える（ポストイット）
- チームで「なぜ大切にしたいか」を話す
- 個人として1個選ぶ

ワーク2

カテゴリー×レベルを考える

- 各自：カテゴリー（1）、レベル（5段階）
- チームでお互いに感想を述べる
 - レベル感は納得しやすいか？
- 感想を受け、各自修正する

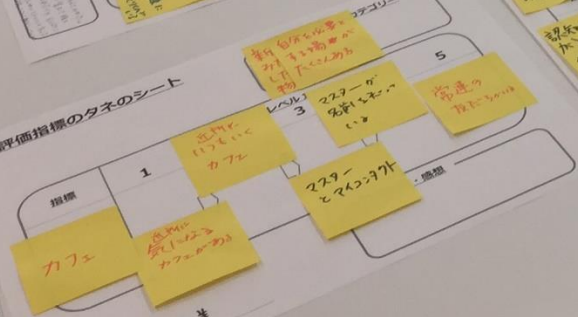
ワーク3

席をかえて、同じことを繰り返す

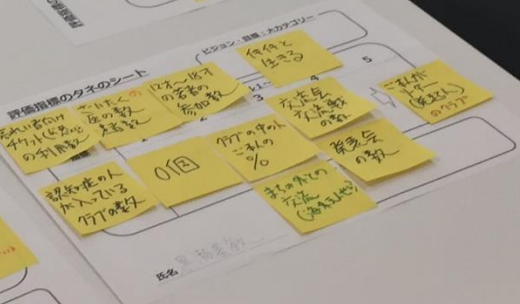
- チームでお互いに感想を述べる
 - レベル感は納得しやすいか？
- 感想を受け、各自修正する



評価指標のタネのシート



評価指標のタネのシート



評価指標のタネのシート

